

Imperial Seal Copier Wins Damages

OSAKA — The Osaka District Court Tuesday awarded ¥640,000 in compensation to a poet and his associate in a damage suit against the prefectural government and the local summary court for issuing a search warrant and searching their homes unduly.

Police searched the homes of Chokyu Yasuda, 65, the poet, and his associate and confiscated handouts printed with a copy of the Imperial seal and signature of the Emperor. The two were charged with violating the law in December 1984.

Presiding Judge Mitsugu Kawada ruled Tuesday that the two could not be prosecuted for forgery for printing materials with a false Imperial seal that can be easily recognized as not genuine at first glance.

The judge said that the prefectural government and the state had violated the Constitu-

tion in requesting and granting a search warrant in connection with the alleged forgery of the Imperial seal.

before they were distributed and applied for the search warrant from the Osaka Summary Court on Dec. 27.

Kawada pointed out that police had obtained the search warrant in an apparent attempt to thwart the two from

distributing the handouts in which they criticized the Emperor.

"Police violated the Constitution, which guarantees freedom of expression and bans censorship," the judge said.

According to the court ruling, Yasuda, 65, a poet of Osaka's Abeno Ward, and his associate

planned to distribute the hand-out at the end of 1984. It contained a picture of the Emperor, the copied seal and Emperor's signature, and satirical

poem on the Emperor.

The Osaka Prefectural Police obtained copies of the printing

— 11 —

●イオノ30で開催した踏み絵の市町村名鑑選考会が開催され、その結果、西田に27万5千枚
を販売する決算結果一括引にて35万5千・西田にて27万5千枚が販
売された。西田にて販売された強制執行(強制執行)を免
除するため申し出たので、大阪府裁判所にて強制執行(強制
執行)の停止(停止)「西田に27万・西田にて27万の保証金を支
てときれ、本來(本來)は強制執行(強制執行)されても、強制執行の停止(停止)を決定(決定)
して西田にて27万・西田にて27万の保証金を支

一
「おお、アーヴィングの本が来た。」
「うーん、アーヴィングの本は、どうも、

Eld. - KouWukai

1-6.1-1307 ASAHI MACHI, ABENO, OS
OSAKA, JAPAN 10

30, Junio '86 N-ro. 305

信達山東

大阪市あべの区旭町1-6-1-1307 向井 孝
TEL 06-647-4029

www.ijerpi.org

大阪市高木通一六一、一二二三〇七一向井考發行 86.7.1

千人集会

について

手稿

かわす

四
卷之三

卷之三

なつEリ、たじろぎながら、だへくもうしょがない。あらん隔り、能力のかぎりを出し尽み以外になじ一九月廿日までは、何をかも放り出してーと、平許で、モラーセンチの廻みになつた「競馬申込」の欄に、新しい一枚をとじこもたびに、シヤドキしてあります。

お決まりじよ時めの回遊として切替してきたのに、ぼく
はこれまでどうも何でやへん…というより
場所から動き出さうとしても、やれることといつたら、も
う今迄にやつてきた、ヨコギハリの「ゆきり・それ以上
のことがな」。お集会するところが、ではたゞさらよつぱり
でも、何か新しいものもそれでつけ加える「」とか出来ない
やうが、ところが、なかなか氣に入るなあつきだ。つまり一生け
人命にかかる「田舎リーベラロイーター」として、ふざけ
が出てきたわけです

② ゲンナリ

勿論そのアーティも、カリオを考えたわけでもなく、尋常なことでは、千人ばかり、三百位がやつとなのは明る。

です)

ルーラー、とかがく考か出でドリクシはー」とかう
よりも毎日千人千人と歸りてこら自分を落すかせ・千人
東分の可能在りうつぱりでも納得するに至る品文として
一「幾の實的點極」とでも云うべきもの、つまりチという

数を・集会の質的転換を図る「田安」として貢ぐる、と
いうこと。
（おまかせやうつづけ・サギヤンシタキはざむじがんぱり）
「ナレバばらくにさへ、千人を魅きつける内容がある集
会だからこそ、千人の見込みは、はじめからない。」
「ナレバどおりの集会と、どう變じ、新しく會う出すかが、
千人集会の前提もどこで、当たる所をやる」と。その上で、
出でるのが、組織宣伝と、やれる限り自分のあらへ限り
の能力を出し尽してひだりでやるへがんばりが生れるが。
④ 転換
ところが、千人を魅きつけると、既成の集会みだりな
ものでない新しい種の集会一派が誕生するのである。いざ
プログラマとなると、(田安)「味方がつーといふか、そ
のぶつかりあれば、そこがでかつて見えてくるのがあ
る。さすがに他のものであつて、その意味とつながりも
でけてくれた。とすれば、それが田安せんが、つまでも、
進行させつかなかで、かくて集会の本領をもつて、集
会全體の印象をまるで新しことある「田安」、あせしろ、
それはまだ、全くが今後へせんとして、田安、あせしろ、
あかしれ、田のじこーとこうこと大いに使ひやつての、気安や、用る
もんをもよねーこー、これにプラスするが、つまり
創造力と工夫ひとつで、集会参加者と、時にもアシとびつ
くライセン、HANSHINをもたらすが、つまり、進行
の中へ巻きあわす時と、中止をもつてのNICEと、思
対抗…と巻きあわす時と、中止をもつてのNICEと、思
うのです。(HANSHIN)カシのようにがんばる。NICEと
相模ガタ(さがた)一騎々力(せきぢき)と、金力(きんり)
のとり入がなど…プログラムに併行する「うんち」、或はそんなんが生
じる。これが、田安の開拓者である。何をもとめ、何をもとめ
たか、田安の確実な開拓者である。何をもとめ、何をもとめ
たか、田安の確実な開拓者である。

朝議^{（）}をプロデューサー的^{（）}に走る。例えど、也田さんと講義^{（）}かよひ見中年部^{（）}私照が登場^{（）}……で大歓声^{（）}。×××空氣^{（）}運行^{（）}する。
とやや内々^{（）}がとび出^{（）}て……とか……）

⑤ 伝播

それらのことはすべてこれから、二番舞台・事務局会議、実行委で、それこそ、ガヤガヤ面白半分の思ひつきで生れ、形としてこゝへつたが具体化されてこゝへとなる。されば、それた多少は加わり、自分もちょっとは相の手を入れたことだ。実行委に参加した人たちが、そりがやが動いてこゝへつの展開につれて、「ひよっとしたら、こゝの集会は、さうひとは型破りの大セロイもんがで、あとあと話の種をつくるためになるかもしれへんぞ。業外、どうやくも来とうながしてやだぞ……」と、引思ふ。一といつみづになつたうしのじとくです。

実行委、参加者いつも50人以上（毎回多少の類がれが度つたとして延べ80人）の、そのよつゆ心理が、その周辺の人々から「ほんとするとMAX=250人に伝播し、口から耳へとひろがる」となれば、千人集会への人口の歩一步にはまつたですね……？

（）の中の実行委参加者8名・のべ5名・事務局会議一名一冊目とし50×20=1000本へ及びません。7月20日はとにかくにモ来てみてーと、力を入れて、大阪周辺の人には呼びかけ、お願いしなければ、と思つています）

現面の可憐として、7月20日は大阪周辺の具体的な集会準備はやはり少數の、十名位も満てぬ人がで走りまわって要もたむまさらぬこと、50、20の数がつくり出す。千人集会の雰囲気、熱氣、勢いを醸す氣ともごく「ベキ」ものと、こうはらば、これもへんな質的軽薄^{（）}としてどう見えることと、ついで、小競の弊害^{（）}をとまどつけてまつたが、とこせざとけません。

⑥ 観起

まるつきり「絵空事^{（）}」みたこゝへの多方に空想的、非現実的な、集会一千人についての、こじつけ的主張を、ながらがとがき、ヌタ、ゲンナリやれる人がないかと心配です。

しかしむちうん一千人集会の準備が現実化していく以上ほどの非現実的主張を実行委で検討してもらう。いろんな修正、改訂、補強^{（）}などして、現実化していくことと強くのぞんでいたものの「想起」であることに同意ありません。ここに、まへせられたに因襲しても強付ます。そもそもへへへです。内蔵がおひつじと「完全的に承認し、その執務とか作業、運営の上に、自身を守るか、くじですか？」

（）この最大の用心^{（）}は、実行委に50人以上、事務局会議に毎回5人以上、いつもあつまり、ともかくトイトイがわかがわせん。かわかはじめから、にあります。一千人集会の前には、

それをしつかり達成しなければ、と、ほんまに手を打つりしめて、切實に思つてゐます。「枯木や山のこせわい」のつもりで、サレハニシヨーのかおりで、ともかく會まえへ動くべですかとこうのが、ほくのこみのおせいです。でもかくでも、一派^{（）}だけエエから、ぐりして来て下さい。どうかおねがいします。一とじでら・そこから、あなたが顔を出さないでいたのとやから、「千人集会」が一步

さんな、幾度かつぶつて、私にはまつた^{（）}とけられへん。イメージがわかへん。やー、自分のおもいと大筋にしと、まつとくく集りや、自分らで手作りする。いつのが今より、とせがへきつかせがへん。四十人集める、千人以上でやかまつて、うつむかへん。こうのはうがうへーと、あとうへんくも、やうじとどくとくおこなががら、それをどう

くらかせしやうべ、かくまでがらうに、えうつか実行委、事務局会議に題出ししてやる。今までどうつと詰がある。おしゃれとおわがは、さうござまかわ。時間が足りへがつまうされ用の集つてをつくれません。ともかくへつトイフライヤーがヤカヤカ講説の紛糾が、もつとおもかげへる、とモ、準備未^{（）}をあわせじ。ひもしうくし、千人集会^{（）}（まあかたごとく）の、一步に進むべきです。

⑦ 「数」

（）中の丑中の実行委、事務局、二番舞台は、名前、会場など、演し物で魅きつけるの世界がある。でそな演じ方で、工夫ニ工夫せぬアカン。さて、工夫ニ工夫せず、実行委のトイフライヤーがヤカラ劍^{（）}を出しまくんで、それは、50人、20人など、うー可貴^{（）}でない。こんな意見、とくともういふべき^{（）}を出します。取り入れる一千人^{（）}の一歩となる「数」からぬじゅう一と、まくまく、お田^{（）}つてゐ人です。

⑧ 一ヶ月

（）の丑中の実行委、事務局、二番舞台は、名前、会場など、演し物の大よきを出さねへと。ホスター等の準備、舞台向^{（）}への準備、など、もつぱら、事務と集会の外枠づくに沿^{（）}でした。つれそこれからもこゝへんにならぬか。7月からまくもうあと2日、）そのまくがタガタしてくる梓^{（）}がため、梓^{（）}をえん備すが、つまりみんな想像力、體^{（）}力、創造力で、えうレイヤウ^{（）}し・「トナイン

その意味で、とくあやめ^{（）}がキ^{（）}がうりの手紙をかくこゝにしました。手稿すき^{（）}おしつかみにかかる部分^{（）}の指摘、反論、意見、感想^{（）}を^{（）}。まくまく、お田^{（）}つてゐ人、1回あるあるかわかはじめから、にあります。一千人集会の前には、